



ソーシャルワーカーのアセスメントと根拠に基づいた実践内容の記録化の重要性



兵庫県立西宮病院
地域医療連携センター
医療ソーシャルワーカー
古家英敬

こうけひでたか ●2006年3月、九州保健福祉大学社会福祉学部臨床福祉学科卒業。2006年4月、医療法人社団淡路平成会平成病院入職。2013年4月、兵庫県立淡路医療センター入職。その後、兵庫県立西宮病院へ転勤し現在に至る。取得資格は社会福祉士、公認心理師、介護支援専門員、がん専門相談員、両立支援コーディネーター。

当院地域医療連携センターの概要

当院の地域医療連携センターは、センター長1人(副院長)、部長1人(医師)、課長1人(看護師)、前方支援担当看護師2人、退院調整看護師7人、医療ソーシャルワーカー(以下、MSW)4人(正規3人)、事務員1人が在籍している。退院調整看護師とMSWは、主に退院調整を行っている。各病棟に主担当と副担当として社会福祉士と看護師をペアで配置している。また、患者窓口相談業務、がん相談業務、外来相談業務、入退院支援センターでの相談業務などの一般的な相談業務に加えて、腎移植手術に対するドナー面談業務を行っている。

兵庫県立病院のMSWと研修会

兵庫県立病院では、2013年度から正規

職員のMSWを配置している。2023年2月現在、兵庫県立病院全体で、32人の正規職員が在籍している。社会情勢が目まぐるしく変化する中で、MSWとして相互研鑽を促進するほか、ソーシャルワーカーとして必要な価値・知識・技術を学び、対人援助職として質の高い相談・連携業務を行うため、県民のための医療福祉の発展を目的とした研修(以下、MSW研修会)を2021年度までは年に1回、2022年度以降は年に2回行っている。MSW研修会に参加する病院は、当院を含め8病院である。

研修の内容は、2018年6月は「エコロジカルモデル」、2019年10月は「災害ソーシャルワーク」、2020年6月は「アセスメントに主眼を置いた面接技術」、2021年10月と2022年6月は「臨床推論を用いたソーシャルワーク実践」であった。

生活支援記録法との出会い、研修を受けるまでの経緯

2021年9月、当時、国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健医療学専攻博士課程にて「医療ソーシャルワーカーの実践過程を支える経過記録法のあり方—生活支援記録法(F-SOAP)の導入によるアク



兵庫県
西宮市

兵庫県立西宮病院

病院概要：当院は、1936年兵庫県立西宮懐仁病院として開設された、兵庫県で初の県立病院である。現在、病床数400床(一般病床)、診療科25科、急性期病院・地域支援病院・県指定がん診療連携拠点病院としての役割を担っている。

また、救命救急センター、腎疾患総合医療センター、消化器病センター、周産期母子医療センターなどがある。

ションリサーチ」の調査研究をしていた高石麗理湖氏から全国調査のためのアンケートの案内があり、回答した。その後、高石氏から生活支援記録法の研修の案内があり、2022年1月、「生活支援記録法 (F-SOAIP : エフソ・アイピー) から考えるソーシャルワークにおける記録の目的と重要性」の研修を受けた。研修を通して、次のことを学んだ。

- 記録はクライアントの生活や人生の証であり、ソーシャルワーク実践を証明することができること
- ソーシャルワーカーとして、ストレングスの視点を持って、支援した根拠を基に、F (焦点)、S (主観的情報)、O (客観的情報)、A (アセスメント：思考)、I (介入、実践したこと)、P (計画) をしっかりと記入し、多職種の誰が見ても支援内容が分かるように記録することが大切であること など

また、2021年10月、兵庫県立病院のMSW研修会にて「臨床推論を用いたソーシャルワーク実践」を学んだ。この研修では、次のことを学んだ。

- ソーシャルワーカーとして、理論やアプローチ論を知識として得る力、倫理観をしっかりと持つ力、知識や技術を駆使しながら実践できる力が必要であること
- 感覚やセンスだけでは根拠を持ったソーシャルワークを実践しているとは言えないが、ソーシャルワーカー自身が抱いた気がかりや胸騒ぎというものも大切にしながら、さまざまな情報を思考過程に乗せて、判断や決断を積み重ねながら責任ある支援を行うこと
- 日頃行っている業務を「言語化しプレゼンテーションする力」が必要であり、そ

のためには、根拠を持ったソーシャルワーク実践ができていのかを常に意識する必要があること

これらのことから、私は臨床推論の学びとF-SOAIPの学びがつながっていると考えた。すなわち、「ソーシャルワーカーとしての思考と根拠の見える臨床推論の実践を言語化しながら記録する方法がF-SOAIPではないか」と考えた。私は兵庫県立病院MSWの代表者として研修会を企画しており、F-SOAIPの研修会を提案し承認を得た。その後、高石氏へ連絡し、F-SOAIPの研修を実現することができた。

MSW研修会でF-SOAIPの研修を開催

2022年11月、F-SOAIPの研修会を実施した。Zoom形式で正規職員30人が参加した。研修内容は、講義とグループワークである。講義ではF-SOAIPとはどういうものかを学び、グループワークでは各病院で行っている記録を振り返りながら課題を確認すると共に、今後、個人単位でできることや部署としてできることは何かを考えた。研修後、「生活支援記録法 (F-SOAIP) の研修を受けて感じたこと、課題や今後実践していきたいことは何か？」についてアンケートを行ったところ、表1のような回答が得られた。

研修後の各病院での取り組みと課題

当院の場合

2022年度の部署の年間目標として、MSWと看護師の記録内容の違いを理解し合い、病棟看護師が退院調整の状況が分かる記録を検討して、単に簡潔な記録とするのでは

表1 生活支援記録法 (F-SOAIP) 研修後のアンケート結果

生活支援記録法 (F-SOAIP) の研修を受けて感じたこと、課題や今後実践していきたいことは何か？

- 他院での記録方法やどのようなことを意識しているかを聞くことができ、自分も意識したい点や注意したい点に気づくことができた。
- 自分の日々の記録を振り返ることができた。記録に対して同じような悩みを共有・相談できる場であった。
- 現在の記録法は病院によってバラバラだった。県立病院のMSWとして統一した記録を検討できればと考えた。
- SOAPとの違いが理解でき、実践に役立てられそう。
- まずは自身の面談の内容を、生活支援記録法で記載してみるところから始めたい。
- 専門性向上のためにも、見読性の高い記録ができるように心がけたい。
- 記録方法を意識することによって、自分が行っているソーシャルワーク実践を整理でき、振り返りにもつながると思った。
- ソーシャルワークとしての思考を大切に、F-SOAIPの知識を生かした記録をしていきたいと思った。
- FやIが注目されていて、MSWの支援や記録として有用だと思った。
- SOAP記録を使っている中で、MSWとして患者さんや家族に伝えたことを書くところに迷い、「O」に記載していることに違和感があったので、この研修を受けて今後の学びにつながった。
- FとPで医師や看護師にも退院調整などの進捗状況を理解してもらえよう、意識しながら記録していこうと思った。
- F、Iと項目に書くと、F-SOAIPを知らない他職種は混乱するかもしれないので、まずは部署内で共有し、実際の業務に生かしていきたいと思った。
- 記録作成時にFをより具体的に記載すること。またAやIを意識して記録するため、メモで項目を記載し入力したいと思う。そして、講義後、部署内でどのように記録入力に取り組んだのか調査したいと思う。
- 誰が見ても分かりやすい記録を心がけ、MSWとしての根拠もしっかり伝えていきたい。
- 明日からの面接、記録時にF-SOAIPを意識することで、専門職として根拠のある支援を実践したいと改めて思った。記録は多職種と共有するものなので、記録を通してMSWの専門性に理解が得られるように使っていければと思った。

なく、MSWと看護師の価値観を大切にしながらよりよい記録方法を目指した。

次に、目的と取り組んだ方法・内容を紹介する。

●目的

- MSWと看護師の価値観を大切にしたい記録を検討する
- 部署内の他メンバーや他部署・多職種が見て、分かりやすい記録を目指す

●方法

- アンケートによる意見の集約

2022年10月、部署内の各職員にアンケートを実施し、記録に対する思いを確認することとした。アンケートでは、「誰が見ても分かり、具体的な表現で支援内容や支援経過が分かる記録が大切」「患者や家族の思い（揺らぐ思い、秘めている思い）の記載が大切」であると感じていることが分かった。また、「面談の記録の場合、要

点を記載するようにしているが、文章が長くなってしまうため、病棟スタッフなどが読む気持ちをなくす可能性がある」という課題があることも分かった（表2）。

• F-SOAIPの共有

2023年1月の部署内ミーティングで、アンケート結果（表2）を報告し、前述した目的の内容を確認した。また、高石氏の講義内容を各職員に配布し、F、S、O、A、I、Pの一つひとつの意義と内容を共有した。

• 部署内の記録方法の改善策を検討

記録法はSOAP記録であり、記録の冒頭には「#地域支援」と表記していた。2023年1月の部署内ミーティングでの話し合いの結果、記録方法を次のように変更することとした（表3）。

- ①冒頭の「#地域支援」の部分をより具体的に表記する
「#地域支援」の部分は、F-SOAIPにお

表2 部署内の記録方法についてのアンケート結果

質問1：記録をする上で大切にしていること

- 支援内容や支援経過を具体的に書き、誰が見ても分かるよう記録する。
- 5W1Hは必ず記載する（例：○時～、○階面談室にて〈本人、家族〉と面談実施など）。
- 要点を外さず、できるだけ簡潔に記録する。
- 他機関とやり取りした場合には、機関名だけではなく、個人名も記載する（機関名は略称ではなく、正式名称で記載する）。
- 専門用語や略語は基本的に使用せず、使用する時は記録基準で決められたものを使用する。
- 患者、家族の想い、受け止め方、反応、表現の仕方、希望していることを記載する。
- 支援困難事例は、どのような課題に対して支援が停滞しているのか、どの関係機関と調整しているかを明確に記録するようにしている。
- Pは必ず記載し、適宜、箇条書きで記載している場合もある。

質問2：これだけは記録しておきたいという項目や内容

- 実施した支援内容とその経過や結果（いつ、誰に、何を実施したか、相手の反応）も記録する。
- 他機関とのやりとりに関しては、病院名や事業所名、職種、相手の名前、具体的な内容について記載する。
- 説明と同意について記載する。
- 転院調整の時は、打診中の進捗状況について記載する。
- 在宅調整の時は、課題点について明確に記載する。

- ICや面談した際の本人や家族のSや受け止め方、それについてのアセスメントについて記載する。
- 緩和ケアが必要な状態の記録は、患者や家族の気持ちの変化などを追うように記載する。
- 患者や家族の想い（揺らぐ想い、秘めている想い）の記載が大切である。
- 院内スタッフとの連携では、主治医や担当看護師からの依頼事項なども記録に残す。
- 診療情報提供書などをFAXした場合、「情報をFAX」ではなく、「診療情報提供書、看護サマリー、検査データをFAX」などと具体的に記載する。
- 支援のタイトルを「地域支援」ではなく、より具体的に表記にする。

質問3：記録における現在の課題点

- 面談の記録の場合、要点を記載するようにしているが、文章が長くなってしまいうため、病棟スタッフなどが読む気持ちをなくす可能性がある。
- タイムリーな記録を意識しているが、業務の都合で難しいこともあり、事後になることがある。
- 困難事例など、担当者ごとに少しずつ記載の方法が違う（統一されていない）。
- 情報が多すぎて、読むのに時間がかかる。
- 担当者によって、家族にどのような「ニュアンス」で話をしているのか、家族の受け止め方はどうだったかなどの記載がなく、「説明した」とだけ記載されることがある。その場合、その担当者が休みの日に代わりに対応する際に困ることがある（端的すぎて、同意されたのかどうか分からない）。

ける「F」に当たる。これまでは「#地域支援」であったが、「#地域支援／(支援内容の簡潔な概要)」を記載することとした。

②Aの記載時の留意点を共有

支援に至る思考過程や支援の根拠となる内容をできるだけ記載することとした。

③Pの記載時の留意点を共有

実施した支援内容（生活支援記録法でいうIに該当する内容）や今後実施する予定の内容を記載することとした。担当者が急遽休みになっても、代行する者ができる限りシームレスに対応できるように記載することとした。

●結果

2023年2月の部署内ミーティングで、前述の変更点①～③を実際に行ってみての意

見交換を行った。そこでは、「次に何をするのかを記載するようになり、記録が整理しやすくなった」「スモールステップ的に、確認することの意識づけができるようになった」「誰が見ても分かりやすい記録を心がけるようになった」という意見があった。一方、「まだ記録方法に慣れていないため戸惑うこともある」という意見もあった。

当院以外の病院の場合

●取り組み

研修後、非正規職員にも伝達講習を行い、MSWの記録としてF-SOAIPを使用している。

●課題

取り組みにおける課題として、次のこと

表3 変更後の記録方法

#地域支援／○○について→テーマや支援の要点を記載する。
生活支援記録法の「F」を意識して記載する。

S)

O)

A) できる限り、支援の思考過程も記載する。

P) これから実行しようとしている予定を記載する。

併せて、実行したことも記載する。

生活支援記録法の「I」の部分を意識して記載する。

#とP)を読むと、どんな支援をしたかが分かるように記録する。

誰が見ても分かるように、他職員が代行する際、シームレスに対応できることを意識しながら記載する。

が挙げられた。

- ・現在、F-SOAIPの認知度が分からないので、他部署からの意見を聞きたい。
- ・Fが「退院調整」「転院調整」などになっており、具体的な表現になっていない。
- ・記録に慣れておらず、記述式よりも考えながら記録するため、記録に時間を要する。
- ・MSW共通の記録法で使用していくに当たり、新入職員（非正規含む）への指導をどのように行っていくか。
- ・F-SOAIPの記録法をMSWで使用してよいかを院内で確認する必要がある。
- ・カルテのテンプレートをどうするかを検討する必要がある（電子カルテの記事入力では、SOAP, Freeを選ぶことになっている）。

今後の展望

記録をする意義や記録方法のポイントを、職種を越えて共有していきたいと考える。人は意思が先に働いてから行動を起こす生き物である。地域医療連携室にはMSWと看護師が在籍しており、互いに専門職としての視点や価値観がある。それらの視点や価値観の違いをシェアし理解し合いながら、共に目指す方向を同じにしていくことが大切である。記録についても、MSWと看護

師が共に協働しながらよりよい記録を模索していき、ブラッシュアップすることが可能だと信じている。

誰が見ても見やすくて分かりやすく、職員の誰かが急に休んでもシームレスに対応でき、多職種にもF-SOAIPのよさが伝わり、患者・家族を支援していくチームづくりの一つの方法としての記録を今後も目指していきたい。